



岩手大学教職大学院 国立大学法人 岩手大学

NEWS Letter

岩手大学大学院 教育学研究科 教職実践専攻



問合先: 岩手大学教育学部 〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号 TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600
E-mail edu jim@iwate-u.ac.jp URL <https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

この冊子はグリーン購入法に基づき基本方針の判断基準を満たす用紙を使用しています。



「教育実践研究の成果」更新して公開中
教職大学院ホームページにてご覧いただけます!

<https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

岩手大学大学院教育学研究科研究年報
オンラインISSN 2432-924X

第3巻 (特集論文8編、論文13編、計21編を収録)

岩手の教育課題に関する論文の特集を
常設しました!

- 三上 浩永, 鈴木 久米男, 高橋 和夫, 森本 晋也: 高等学校における「いわての復興教育」: 実態調査で知り得た課題からの一提案
 - 鈴木 義幸, 鈴木 久米男, 多田 英史: 教員の研修に対する意識と育成指標をふまえた研修推進シート開発について
- 他19編

授業力開発実習での学びと手応え

5～6月の2週間にわたり、大学院生はそれぞれの連携協力校において授業力開発のための専門実習に取り組みました。研究テーマに沿って授業実践を積み重ね、成果と課題を明らかにしながら、今後につながる貴重な実習となりました。

融合の
実践の
理論と



授業力・子ども支援力開発実習を通して

[学卒院生(M2)] 浅沼 美里

今回の専門実習を通して、私はこれまで理論として学んできたことを実践で具体化していくことの難しさを実感しました。そして、自分の今の授業力や子ども支援力と向き合い、「子どもの視点に立つ」とはどういうことか、改めて考えられたことが大きな成果と感じています。大学院での学びを実際に教育現場で活かせるように、今後も学び続けていきたいです。

授業力開発実習の振り返り

[現職院生(M2)] 藤森 崇浩

私は主体的に学ぶ生徒を育成するための評価のあり方について研究しています。上田中学校での実践を通して、評価をどう主体性につなげていけばよいのか考えることができました。何がどのくらいできるようになったのか、生徒が自覚できる授業はどうあればよいのか、理論と実践の往還を通して、研究を進めたいと考えています。

考えを表現する力の育成を目指して

[学卒院生(M2)] 川戸 悠

私は、「小学校国語科『書くこと』における、自分の考えを明確にして表現する力を育成する授業についての研究」をテーマとし、連携協力校で研究に係わる授業実践を行わせていただきました。授業における手立てが有効であったかを現在、検討しております。現場に出たとき、活かすことのできる研究をこれからも進めてまいりたいと思います。

統計的探究プロセスを取り入れて

[現職院生(M2)] 三井寺 健司

私は「小学校算数教科『データの活用』領域における単元開発」をテーマとして、大学院での学びと連携協力校での実践を行き来しながら研究を進めています。専門実習では、統計的な問題解決方法のひとつである【統計的探究プロセス】を意識して授業を実践しました。中間発表会では実践した授業を分析して明確になった、成果と課題を中心に報告しました。



教職大学院の日々

日々の教職大学院での学びとして、10の専攻共通科目と30をこえる選択科目が準備されており、院生は自らの学修計画に即して主体的な学びに取り組んでいます。



教育の深さを感じて

[学卒院生(M1)] 小野寺 峻一

私は、講義での理論構築、授業実践での学びが深まり、様々な校種・教科を交えたグループワークで視野の拡大を感じながら充実した生活を送っています。現職院生の方々にアドバイスをいただいたり、時には学卒院生が新しい提案をしてみたり、刺激し合いながら学んでいます。今後も教育の在り方を模索しながら学修に励んでいきます。

新しい視点での学び

[現職院生(M1)] 川原 恵理子

私は、自分の専門の教科や学校種を越え、さらに現職と学卒の年代を超えて、現場では体験できなかった多くのことを学んでいます。学校マネジメントやカリキュラムづくり、学校カウンセリングなどの多岐にわたる科目の他に、公開授業や研究会の参加等によって、新しい視点での学びがあり、日々刺激を受けながら学修に励んでいます。

教育学研究科教員挨拶

研究者教員 鈴木久米男



学校の教員には、授業や学級経営、学校経営等を担当するものとして、研究と修養すなわち研修が義務づけられています。教員にとって「研究」とは、日々の教育実践における課題解決の取り組みであり、さらにそのプロセスを理論化することです。また「修養」とは、理論知や実践力を身につけ、そのことで教師力を磨くことです。

教職大学院は、教員としての研究と修養を組織的・計画的に行う学びの場です。教職大学院での学修と協力校での実践により、教員として求められる資質が形成されます。修養として、様々な年代が集う中で様々な能力を磨き、さらに教育課題解決のための研究スキルを身につける場が、教職大学院です。

微力ではありますが今後も、院生の皆さんと手を携えながら、研究と修養の場としてよりよい学びの場となるよう、努力していきたいと思っております。